

リサーチの方法（１）

北海道支部副支部長・論題検討委員 岡山洋一

はじめに

ディベート準備の要はなんといってもリサーチです。しかしリサーチは面倒だからいやだ、リサーチの仕方がわからないという声もよく聞きます。そういう人たちのために、また効果的にリサーチをしたい、証拠資料の集め方を知りたいという人たちのために、私なりのリサーチの方法を書いていきます。

1. リサーチの概要

1-1 重要な情報は紙の中にある

最近の風潮なのか、インターネットに過度に頼り、何でもインターネットで調べてよしとしてしまう人が多くいます。インターネット上の情報は玉石混交です。質の悪い情報の方が圧倒的に多いのです。いくらインターネットが発達しようとも、重要な情報は、やはり紙の中にあるのです。

本連載では、書籍・雑誌・新聞の調べ方を中心に、図書館の使い方、インターネットでの調べ方を説明していきます。

1-2 リサーチができない理由

リサーチが得意ではない、できないという理由はいろいろあると思いますが、私がよく耳にするのは以下のものです。

大きな書店・図書館が近くにない

大きな書店や図書館が近くになれば、リサーチしようにも難しいものがあります。だからといって、あきらめてしまってはだめです。なんとか補う方法を考えなければなりません。

論題について書いてある本、資料がない

論題に関しての資料がない、少ないという問題は、ある意味当然です。論題に最適な資料はそれほど多くはありません。そのものずばりの資料も少ないでしょう。また、書籍などは肯定側の資料が多いのも当然です。否定側の資料、つまり現状支持の書籍は当然売れませんから、なくて当然なのです。

調べても、調べてもきりがない

初心者が陥りやすい問題に、リサーチをどんどんして行き、最後には自分が何をしているか分からなくなってしまうことがあります。ディベートをするためにリサーチをするという目的を見失ってしまい、ただ本や雑誌を調べ読み続ける。これではいつまでたってもリサーチは終わりません。リサーチが目的になってしまっています。

1-3 リサーチの仕方

効果的なリサーチのためには、次の 4 つを常に念頭においてください。それは、「お金を使う」「時間を使う」「人を使う」「頭を使う」です。お金がある人は、手当たりしだい買ったり、コピーをとったりした方が効率が良いです。お金がない人は時間を使います。図書館に何度も通うのです。時間のない人は、人を使います。どうしても時間のないときには、他の人に頼みます。知っている人に教えてもらいます。頼れる人が居ないときにはどうしたら良いでしょう。そのときは頭を使います。どうしたら効果的なリサーチを行えるかを常に考えます。お金がなければ、時間を使え。時間がなければ、人を使え。人が居なければ頭を使え、です。

リサーチは、まずは量を求めることが先決です。とにかく、できる限りたくさんの資料にあたります。可能な限り資料を集め、読み込みます。最初から質の良い資料だけを追い求めてはなりません。質というのは量の中から生まれるものなのです。

2. 論題が発表されたら

2-1 論題を良く見る

論題が発表されるやいなや、すぐに本を買ってリサーチを始める人がいます。でも論題が発表されたからといって、すぐにリサーチを始めるのは待ってください。ここであせって調べ始めても、かえって後で行き詰ってし

まうことも多いのです。リサーチの始めは、まず論題を良く見て考えることなのです。

論題が発表されたら、まず論題を良く見てみましょう。いろいろな疑問が浮かびます。分からない言葉だらけ、分からない事だらけかもしれません。それで良いのです。今は疑問点を洗い出す程度で良いでしょう。

2-2 論題について簡単に調べる

次に、論題について簡単に調べてみましょう。論題で取り扱っている問題について簡単に調べるには、現代用語集のような本や、社会問題について包括的に扱っている本で調べてみるのが近道です。

論題についての基礎知識や語の定義については、「知恵蔵」「現代用語の基礎知識」「イミダス」などを参照すると良いでしょう。

社会問題を論点ごとにまとめている本には、以下のものがあります。

- 『日本の論点』文藝春秋刊
- 日本の論点編集部編『常識「日本の論点」』（文芸春秋刊、2002年）
- 小学館文庫編集部編『激論！日本人の選択上下』（小学館、2001年）

2-3 入門書を読む

簡単に論点について調べたら、次は入門書を読んでみましょう。まだ専門的な本を読む必要はありません。入門書を数冊読んでみます。一冊だけではだめです。入門書といえども、内容的に偏っている場合があるからです。幅広い知識を得るためにも、数冊読むのが良いでしょう。

入門書を選ぶポイントは、最近の刊行で、手に入りやすく、安価であることです。高いものは、今は買わないでおきましょう。本当にディベートに必要なものは、今の段階ではわからないからです。

入門書を読む場合には、あくまでも基礎知識を得ることを目的として読みます。証拠資料を書き抜いたり、コピーしたりもしません。そのような暇があればどんどん読み進めた方が良いでしょう。とにかく今は、論題についての基礎知識を得ることだけに集中しましょう。

2-4 実践記録・立論を読む

入門書を読むと同時に、ディベートの実践記録、立論も調べてみましょう。同じ論題で行われた実践記録、立論を見ることはとても参考になります。実践記録を見ると、どのような議論があるのか、どのように議論を展開しているのかなどが分かります。また、実際の議論を見ることによって、リサーチの方向性も決めることができます。議論展開の勉強にもなります。

ただし、決して行ってはならないことがあります。証拠資料をそのまま使用することです。これは絶対にやめましょう。使われている資料の原典に必ずあたって、自分で確認してから使用します。実践記録の引用が正しいとは限りません。タイプミスも多くあります。もしその証拠資料を使って問題があっても、当然使用者の責任になります。そのまま使うのは絶対にやめましょう。単に証拠資料への「リンク」だと考え、自分で調べるようにします。使われている証拠資料の原典を読むことにより、新たな証拠資料を見つけることができることもあります。

ディベートの実践記録、立論は、書籍や雑誌、インターネット上に多数あります。インターネット上の情報は、書籍と違い頻繁に更新されることが多いので、日頃からチェックし、確認しておくことをお勧めします。

インターネット上で公開されている立論、実践記録には以下のものがあります。

- 日本ディベート協会 (JDA)
<http://www.kt.rim.or.jp/~jda/>
- 全日本英語討論協会 (NAFA)
<http://www.t3.rim.or.jp/~nafa/>
- Debate Open Space (DOS)
<http://www2u.biglobe.ne.jp/~kurapy/debate.html>
- オンラインディベート
<http://www.debate.shadow.ne.jp/>
- DEBATE AGORA
<http://www13.big.or.jp/~yokayama/Agora/index.htm>

その他各大学、学校の HP にも立論などが掲載されています。検索エンジンなどを使って、調べてみましょう。